

〔2〕 中心市街地の現状分析

(1) 中心市街地の概況

大垣城下には美濃路が通っており、宿場町として、また内陸水運の港としてにぎわっていた。

近代に入り、明治17年の大垣駅開業を契機に、それまで活況を呈した船町港周辺から鉄道駅周辺へと小売商業集積地区が移動、現在の中心商店街が形成されはじめた。

しかし、昭和20年、太平洋戦争の大垣空襲によって、中心市街地の大部分は焼失し、当時国宝であった大垣城も焼失した。

終戦後は、戦災復興として、大垣駅通りを中心に、住宅併用の鉄筋コンクリート商店街の建設に着手し、当時、地方都市としては規模も大きく近代的な建築が全国の商業関係者の注目を集めた。さらに、昭和34年には、大垣城の天守が再建された。

また、繊維業をはじめとする産業集積により、西美濃地域の拠点としての集客力を発揮してきたが、繊維業の衰退、モータリゼーションの進展及び道路整備により、郊外では宅地化が進行するとともに、大型小売店舗の立地が増加してきた。

その結果、中心市街地の映画館などの娯楽施設や魅力ある飲食店舗等が減少したため、中心市街地内の人口や歩行者通行量が減少し、それまでの界限性も失われ、中心部の拠点性は低下してしまった。

こうした中、平成20年度からは、大垣駅南街区第一種市街地再開発業が進められ、本市のまちの顔である大垣駅周辺に相応しい都市型住宅、商業施設、公共施設（子育て支援施設）等を含む複合施設が平成28年9月に竣工された。

【中心市街地（大垣駅南口付近）の現状】



(2) 中心市街地において蓄積されている歴史的・文化的資源、景観資源、社会資本や産業資源等の既存ストックの状況

① 歴史的・文化的資源

1) 大垣城

大垣城は関ヶ原合戦以前からまちの政治・経済の中心として機能していたとともに、戦災にあって焼失した後も市民による天守の再建が行われるなど、市民に愛されるまちのシンボルとなっている。



2) 奥の細道むすびの地

日本を代表する俳人・松尾芭蕉が、約5か月間にわたる奥の細道の旅で、大垣を終着点として紀行をむすび、「蛤のふたみに別行秋ぞ」と詠んだことから、奥の細道むすびの地と言われている。むすびの地の船町港跡には、住吉燈台があるほか、舟が浮かべられており、平成26年3月に「おくのほそ道の風景地 大垣船町川湊」として国の名勝にも指定されている。

船町港跡前には、平成24年4月にオープンした奥の細道むすびの地記念館があり、観光の拠点となっている。また、水門川沿いに整備された遊歩道には奥の細道紀行のなかで詠まれた62句のうち、著名な22句の句碑が設置されており、「ミニ奥の細道」として親しまれている。

3) 文教のまち

大垣藩敬教堂跡は、戸田氏庸公の時代に設立された藩校の跡地であり、石碑とともに、開校中に植樹されたという学問の木と呼ばれるトネリコの古木などがあり、当時の面影を偲ばせる場所となっている。

大垣市出身で、日本画、歴史画の巨匠として活躍された故守屋多々志画伯の作品を展示するために、民間の施設を市が借り受け、守屋多々志美術館として守屋画伯の作品を紹介している。

郷土館は、昭和60年、戸田公入城350年の記念事業として建設された施設で、大垣藩主戸田公の顕彰を中心に、大垣の先賢たちの功績のほか、大垣の成り立ちを紹介する歴史資料を展示している。また、館内には樹齢500年を越すサツキの盆栽等を展示する日本式庭園もある。さらに、幕末から明治維新にかけて活躍した大垣藩城代小原鉄心が、後年設けた別荘である無何有荘大醒樹が奥の細道むすびの地記

念館に移築されており、当時、文人や志士が招かれた建物を見ることができる。

4) まつり・イベント

4月上旬には、奥の細道むすびの地の顕彰と、俳句の普及のために、芭蕉祭が開催される。

市の中心部を流れる水門川を観光客が舟とたらい舟に乗って下る「水の都おおがき舟下り」と「水の都おおがきたらい舟」も開催される。

5月には、370年余の伝統を誇る大垣まつりが開催される。大垣まつりは、正保5年（1648年）大垣城下町の総氏神であった八幡神社が大垣藩主戸田氏鉄公により再建整備されたおり、10か町が10両の軸を造って曳回したのがはじまりである。

大垣まつりの特徴でもある2.2里（約8.8km）の本楽巡行は、東回りと西回りの年次交代で行われており、また中心となる通り沿いには多くの露店が軒を並べる。

なお、平成27年3月に「大垣祭の軸行事」が国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年12月に、ユネスコ無形文化遺産に登録された。

8月上旬には、豊富な地下水に感謝して、万灯流し、七夕まつり、大垣おどりなどを行う水都まつりが開催される。水都まつりは、昭和11年、大垣実業組合が商店街の繁栄を願って水門川一帯や大垣駅通り、本町通り等ではじめたものである。

10月には、大垣藩十万石の城主を祀る常葉神社の例祭である十万石まつりが開催される。現在は大垣観光協会等が中心となり、神輿の練り歩きのほか様々な催しが開催される。

12月には大垣駅通りを中心に、イルミネーションで光の空間を演出する城下町大垣イルミネーションが開催される。

また年に数回、大垣駅通りや大垣公園、丸の内公園などの複数エリアにおいて、商店街のワゴンセールや、手作り雑貨や衣料品・食品のテントマーケットを行うまちなかスクエアガーデンが開催される。



水の都おおがき舟下り
(3月～4月)



大垣まつり(5月)



水都まつり(8月)

5) 水の都

天明2年（1782年）、岐阜町のこんにやく屋文七が、川端に穴を掘り、そこに青竹を打ち込むと竹の先から水が噴出したという言い伝えが残る井戸が、堀抜井戸発祥の地として残されている。

本市を象徴する水をテーマに、自噴水を活用した「水都の泉」（高屋町）、「名水大手いこ井の泉緑地」（郭町）、「むすびの泉」（船町）、「栗屋公園」（栗屋町）などが整備されている。

大垣城下町の総氏神である八幡神社には、自噴井戸「大垣の湧水」がある。

これらの井戸には、多くの観光客が訪れるとともに、日頃から市内外から水を汲みに来るなど、広く親しまれている。



大垣の湧水

6) NPO等市民活動

本市の中心市街地では、商業者だけではなく市民や学生等によるまちづくり活動が活発であり、次のような団体が常時活動している。

【中心市街地内で活動する市民団体等】

団体名	活動の概要
岐阜協立大学 マイスター 倶楽部	大垣商工会議所による「空き店舗対策モデル事業」の一環として、平成10年大垣駅南側に、大垣駅前商店街振興組合、岐阜協立大学のまちなか共同研究室として開設。令和3年度に大垣駅南側の研究室は閉鎖したが、校舎にて引き続き調査研究・交流・起業・イベント企画等に取り組んでいる。
NPO法人 まち創り	まちづくりの推進を図る活動を行う市民活動団体で、令和5年度まで大垣市多目的交流イベントハウスの運営・管理のほか、市民活動支援センター業務を行い、市民活動団体の支援や交流の促進を行った。
NPO法人 水都まちづくり	大垣の地域資源である「水」を活用・演出して、中心市街地の活性化を図る活動を実施している。中心市街地を流れる水門川に関連したイベントの実施のほか、アート関連イベント等を実施している。
NPO法人 くすくす	子育て支援を行う市民活動団体で、キッズピアおおがき交流サロンの運営をしている。子育て世代の親子が気軽に集い交流し、相談や情報交換ができる場となっており、子どもの一時預かり等も行っている。
ふるさと大垣 案内の会	市民をはじめ、大垣を訪れる観光客に対し、広く大垣の文化・歴史などを案内し、市の活性化に寄与することを目的に活動。観光ボランティアガイドが来訪者に観光案内を実施している。
終の住まい 研究会	交流の場（プラチナプラザ）を通して、高齢者福祉活動を行い、生き甲斐づくりと認知症予防と高齢者の能力活用を行っている。
NPO法人 地域産業支援 ネットワーク	企業経営の知識や経験の豊富な専門家で構成され、地域の中小企業の経営課題に対して、継続的かつ親身な立場で支援することで、地域産業の活性化に寄与することを目的に活動している。
大垣キワニス クラブ	子どもたちのために活動を行う奉仕団体で、難病の子どもを勇気づけるためにキワニスドールを贈る活動のほか、オレンジリボン運動の参加協力や養護施設の支援等を行っている。
一般社団法人 大垣タウンマ ネジメント	市の都市再生推進法人に指定され、中心市街地活性化を目的として、「まちなかスクエアガーデン」、「えきまえスクエアパーティー」等のイベントの実施に取り組んでいる。

団体名	活動の概要
NPO法人 緑の風	公園緑地及び緑に関する調査、研究等を行っている団体で、大垣公園にてプレーパークを開催し、子供の想像力を高め、社会性を養い、自由に楽しく遊べる場所の提供をしている。

② 景観資源

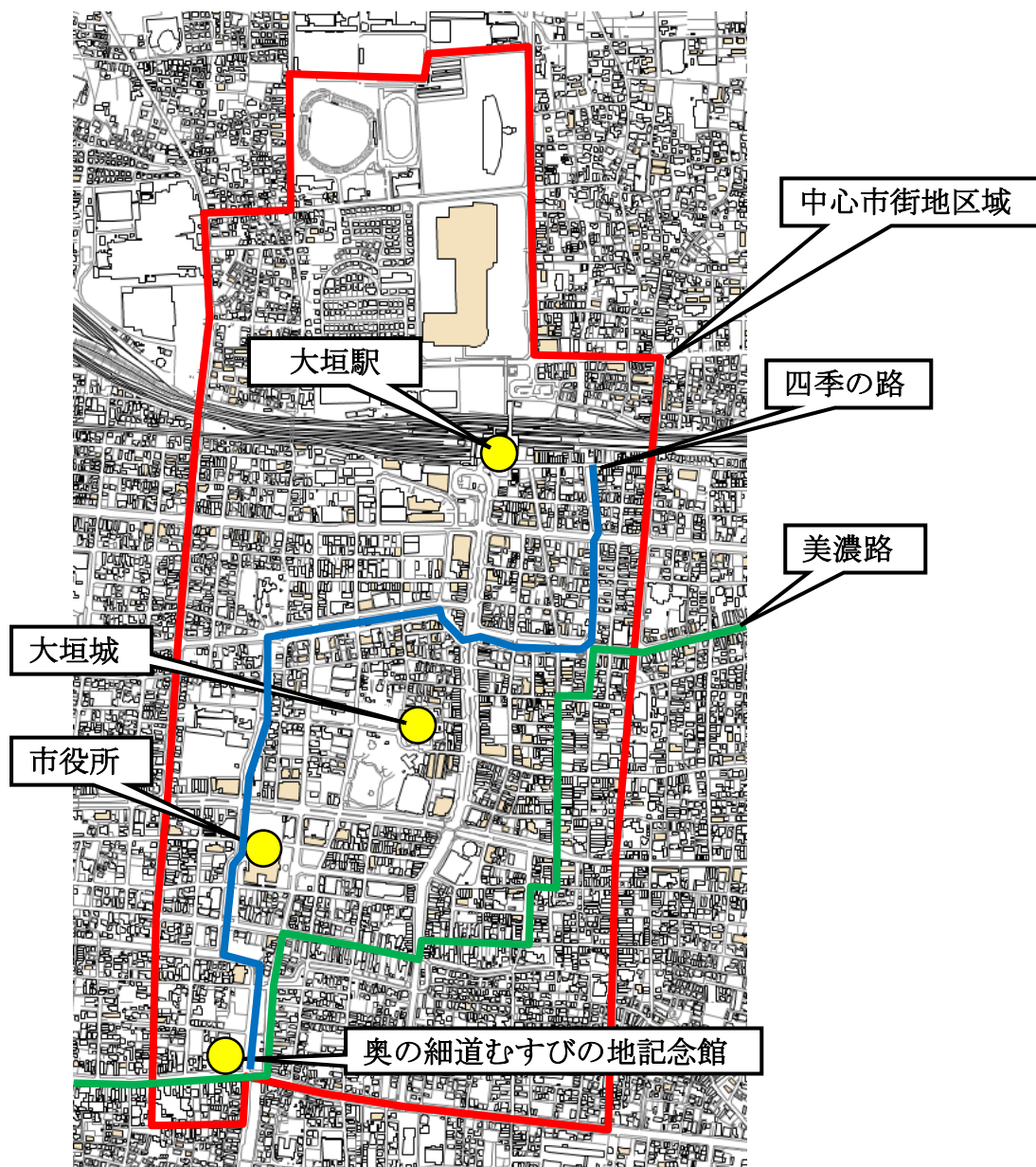
1) 四季の路

四季折々の草木を楽しむことのできる「四季の路」が水門川沿いに整備されている。また、奥の細道むすびの地まで、松尾芭蕉が詠んだ句碑が建てられ、「ミニ奥の細道」として芭蕉の足跡をたどることができるよう整備されている。

2) 美濃路

美濃路は、「東海道宮宿」と「中山道垂井宿」を繋ぐ脇街道で、美濃路大垣宿は、宮宿から数えて7番目となる美濃路最後の宿場であった。現在も、美濃路大垣宿の名を残す本陣跡（美濃路大垣宿本陣跡）風景や史跡などが残っており、美濃路の文化・歴史を活かした景観形成の『景観まちづくり』を進めている。

【四季の路、美濃路の配置図】



③ 社会資本や産業資源

中心市街地は、昭和20年7月戦災により焼失したが、戦災復興として大垣駅通りを中心に商店街を整備した。交通網としては、大垣駅から南北に主要地方道大垣停車場線、東西に都市計画道路高屋・桧線を整備した。

公益施設としては、平成19年10月に十六銀行旧大垣支店跡地を改修し展示等のイベントスペース及び会議室を備えた「多目的交流イベントハウス」を整備し、平成28年にはキッズピアおおがき子育て支援センター、住宅を含む複合施設を駅南に整備した。

駅北側には、平成19年10月にアクアウォーク大垣店が開店し、平成20年4月に民間の総合病院が開設され、中心市街地の利便性が更に向上している。

また、駅通りには大垣城や守屋多々志美術館が隣接するほか、令和2年1月に市役所の新庁舎が完成し、まちなか回遊のポイントとして今後も活用が期待される。

(3) 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

① 人口動態に関する状況

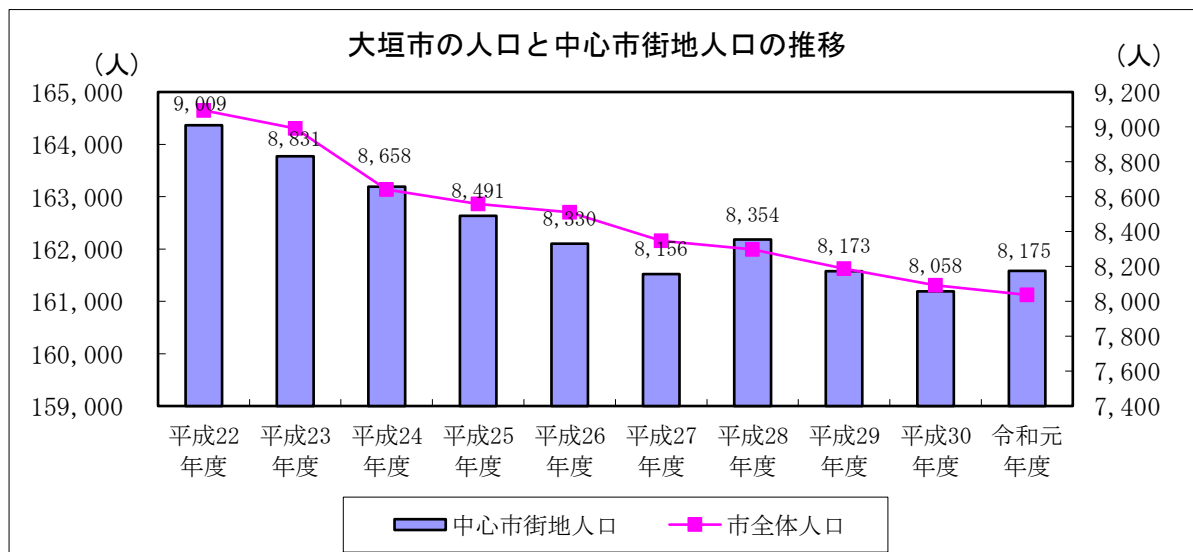
1) 人口と高齢化率の推移

住民基本台帳による令和元年度の大垣市全体の人口は、161,123人で、中心市街地の人口は8,175人である。

平成22年度から令和元年度までの人口の推移をみると、市全体においては一貫して減少しているが、中心市街地においては、平成28年度からの減少スピードは緩やかに推移している。

また、高齢化率の推移をみると、大垣市全体、中心市街地ともに増加を続けている。また、中心市街地については大垣市全体に比べ、高齢化率が7～8ポイント高い値で増加している。

【大垣市全体と中心市街地の人口の推移】



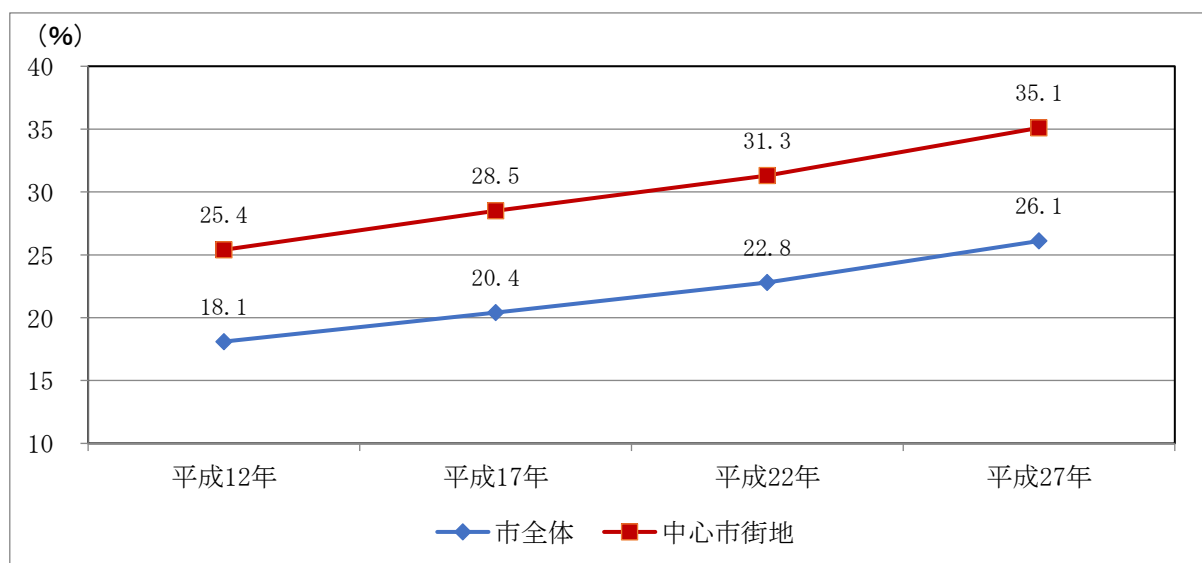
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
市全体人口（人）	164,649	164,306	163,134	162,859	162,702
高齢者数（人）	36,669	37,330	38,666	39,988	41,179
高齢化率（％）	22.3	22.7	23.7	24.6	25.3

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
162,157	161,992	161,628	161,308	161,123
42,119	42,774	43,196	43,678	43,905
26.0	26.4	26.7	27.1	27.2

（資料：住民基本台帳）

注：各年度3月31日現在の数値である。

【国勢調査による大垣市全体と中心市街地の高齢化率の推移】



（資料：平成27年国勢調査、大垣市）

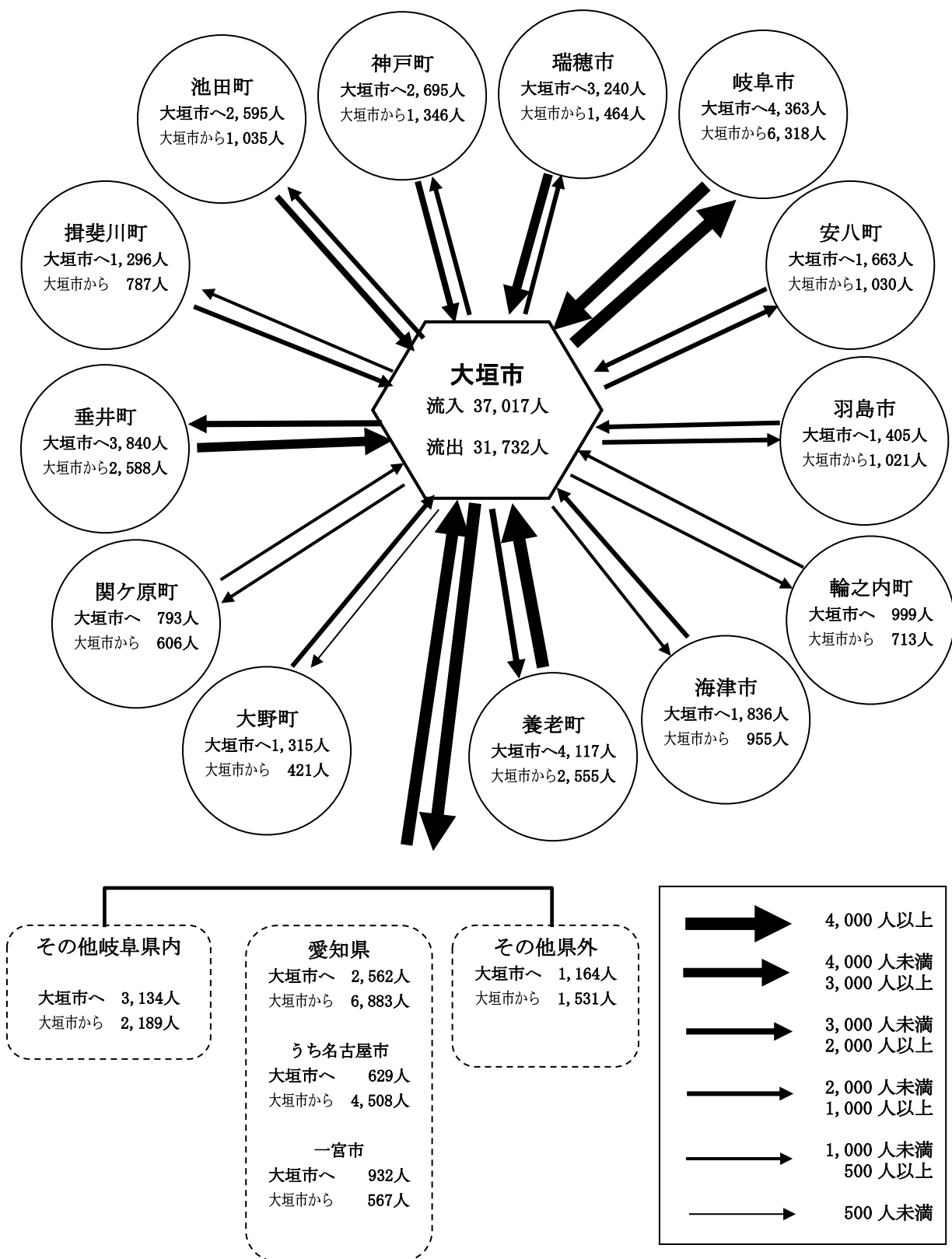
2) 就業者・通学者の流出・流入人口の状況

平成27年の国勢調査によると、就業者・通学者の流出入人口は、流出人口が31,732人、流入人口が37,017人で5,285人の流入超過となっている。

自市内就業者・通学者数は55,490人（全体の就業者・通学者数87,222人）で約64％である。

また、主な流出先は岐阜市や名古屋市、流入先は岐阜市、養老町、垂井町の占める割合が大きい。

【大垣市の流出・流入人口の状況】



(資料：平成27年国勢調査)

② 土地・建物利用に関する状況

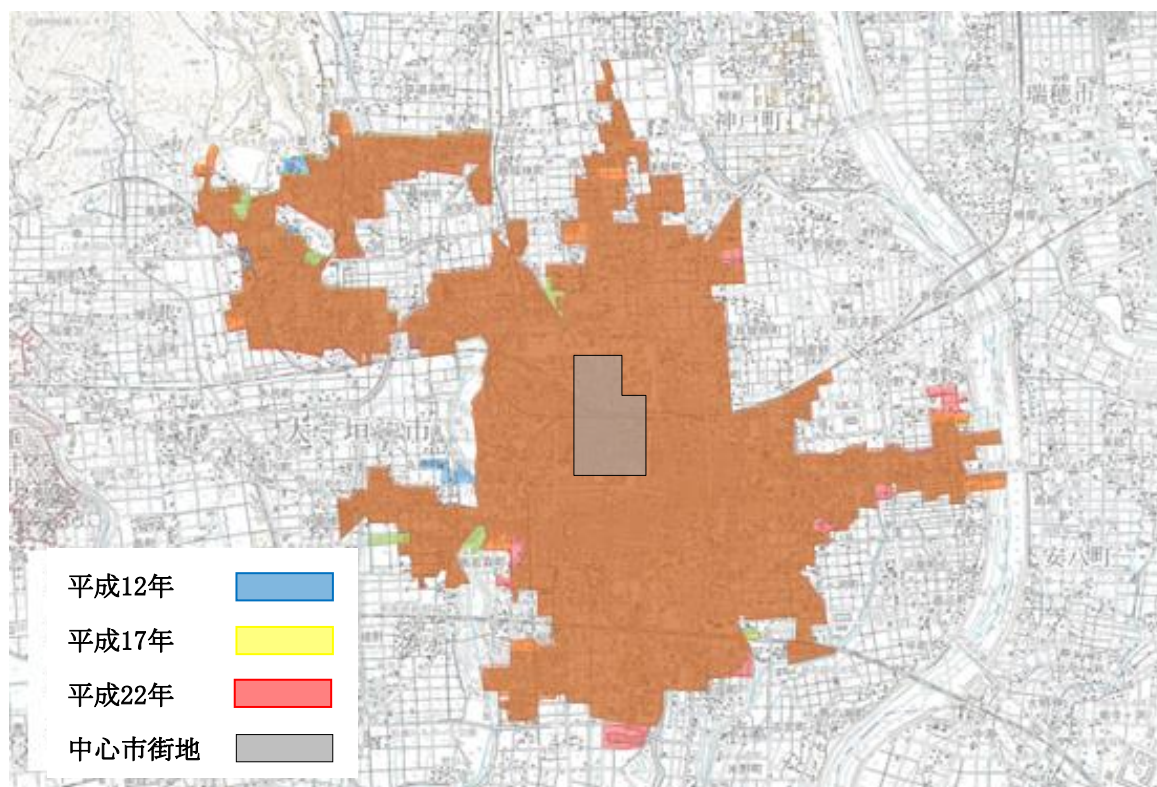
1) 人口集中地区の面積と人口密度の関係

平成12年の人口集中地区の面積は20.81km²、人口密度は4,428.5人/km²と高密度な市街地が形成されていた。

その後の推移をみると、年々人口集中地区面積は増加する一方、人口密度は減少傾向にあり、平成27年では人口集中地区面積21.46km²、人口密度4,342.9人/km²となっている。

【大垣市の人口集中地区の変遷】

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
面積 (km ²)	20.81	20.94	21.05	21.46
人口密度 (人/km ²)	4,428.5	4,437.6	4,416.2	4,342.9

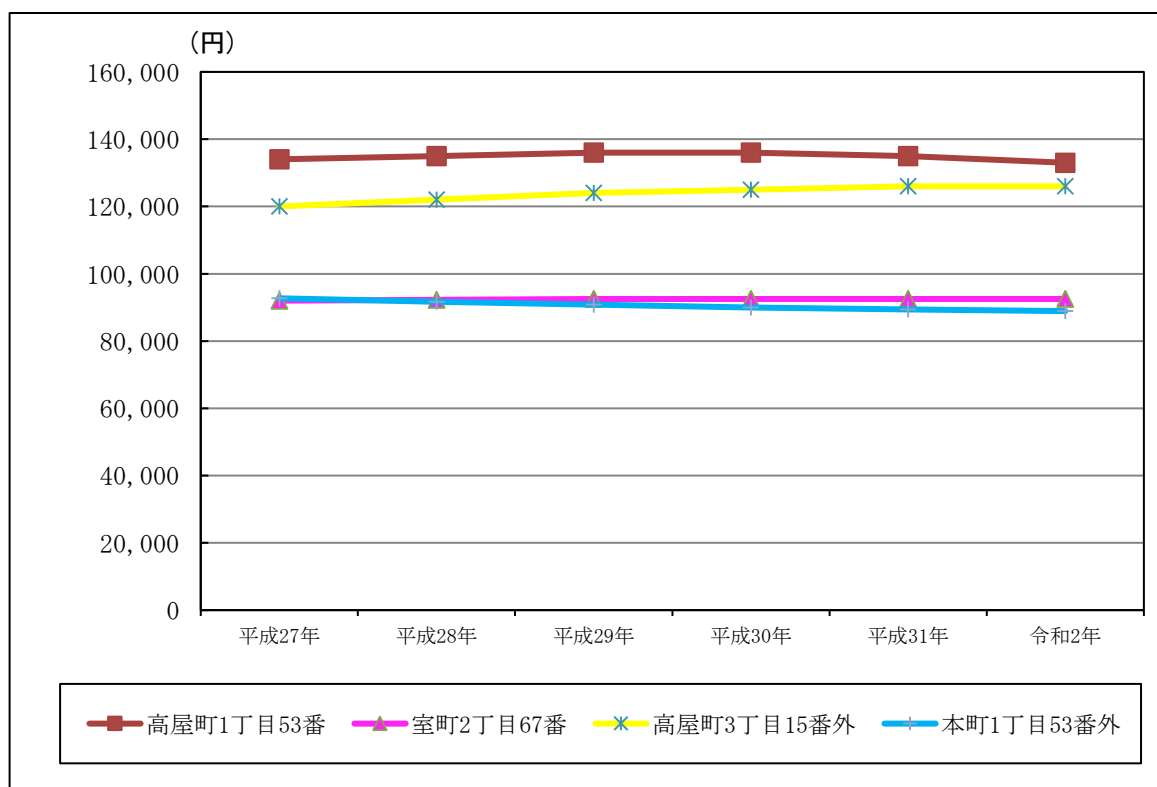


(資料：平成27年国勢調査)

2) 中心市街地の地価公示の推移

平成27年から令和2年までの中心市街地内の地価の推移をみると、高屋町3丁目15番外は上昇、高屋町1丁目53番と室町2丁目67番はほぼ横ばい、本町1丁目53番外は下落している。

【中心市街地の地価公示の推移】



(資料：岐阜県)

③ 都市福利施設・公共公益施設の整備に関する状況

中心市街地には、市役所庁舎や郵便局、大垣税務署、岐阜地方裁判所大垣支部のほか、大垣市総合福祉会館、子育て支援センター等の公共公益施設が立地している。

また、大垣城、郷土館、守屋多々志美術館、奥の細道むすびの地記念館といった教育文化施設のほか、保健センター、救急医療センター、訪問看護ステーションといった医療・保健施設も立地しており、本市の中心的な都市福利施設や公共公益施設は、中心市街地内に集約されている。

さらに、医療施設に関しては、中心市街地内に市域全体の約25%が集中して立地しているほか、総合病院についても、平成20年4月に大垣駅北側に開設された。

また、銀行、ホテル・旅館が中心市街地内に多く立地している。

④ まちなか居住に関する状況

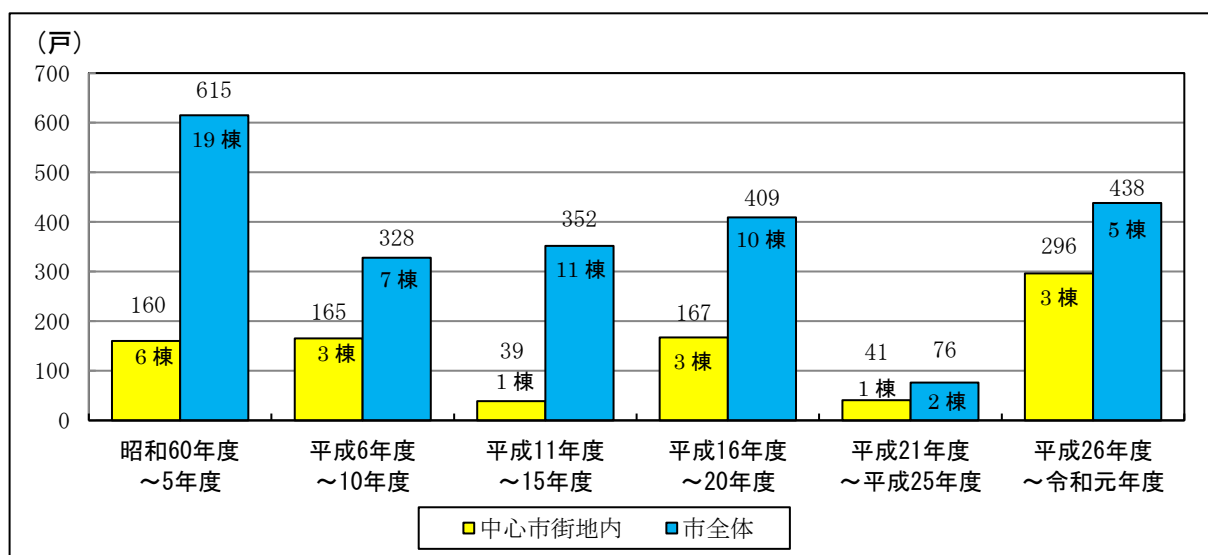
1) 分譲マンションの立地状況

繊維業の衰退に伴って工場の廃業が進むなかで、岐阜市、名古屋市への交通利便性などを背景として、昭和60年度以降、これら跡地におけるマンションの建設が加速した。

また近年は、中心市街地周辺部での建設が拡大しており、平成26年度からは、7棟のうち4棟が中心市街地で建設され、1棟当たりの戸数も増加している。

また、階数10階以上のマンションが大半を占めており、土地の有効利用が進んでいる。

【分譲マンション供給戸数の推移】



(資料：大垣市)

【中心市街地内の分譲マンションの立地状況の一覧】

分譲マンション 名称	用途	階数	戸数	延床面積 (㎡)	完成年
ライオンズマンション 大垣	併用住宅	11	29	2,109.93	昭和62年
パサージュ大垣	併用住宅	12	42	2,649.88	平成2年
バンベール丸の内	専用住宅	10	18	1,405.36	平成2年
大垣アイリス壺番館	併用住宅	9	27	1,913.98	平成3年
大垣アイリス弐番館	専用住宅	9	20	1,617.72	平成4年
アピエス大垣	専用住宅	10	24	1,985.32	平成5年
アクアディア大垣	専用住宅	11	20	1,613.49	平成8年
レールシティ大垣駅前	専用住宅	14	80	7,728.94	平成9年
シャルマンコーポ 大垣駅前	専用住宅	14	65	5,358.01	平成10年
キャッスルハイツ 大垣郭町	専用住宅	14	39	3,939.90	平成12年
ライオンズマンション 大垣公園	専用住宅	15	55	5,297.35	平成16年
シャトレ愛松鷹匠	専用住宅	11	40	3,835.04	平成17年
リーデンススクエア 大垣駅前通	専用住宅	13	72	6,381.72	平成18年
ローレルコート 大垣高砂町	専用住宅	15	41	3,449.88	平成22年
ライオンズ大垣駅前 ローレルタワー	併用住宅	17	112	12,283.09	平成28年
ザ・パークハウス大垣	専用住宅	13	47	4493.61	平成28年
プレサンスロジェ 大垣駅前	専用住宅	15	137	11,860.59	令和元年
ローレルコート 大垣丸の内	専用住宅	12	32	2,499.82	令和2年
ダイアパレス 大垣駅前	専用住宅	15	56	4,634.78	令和5年

(資料：大垣市)

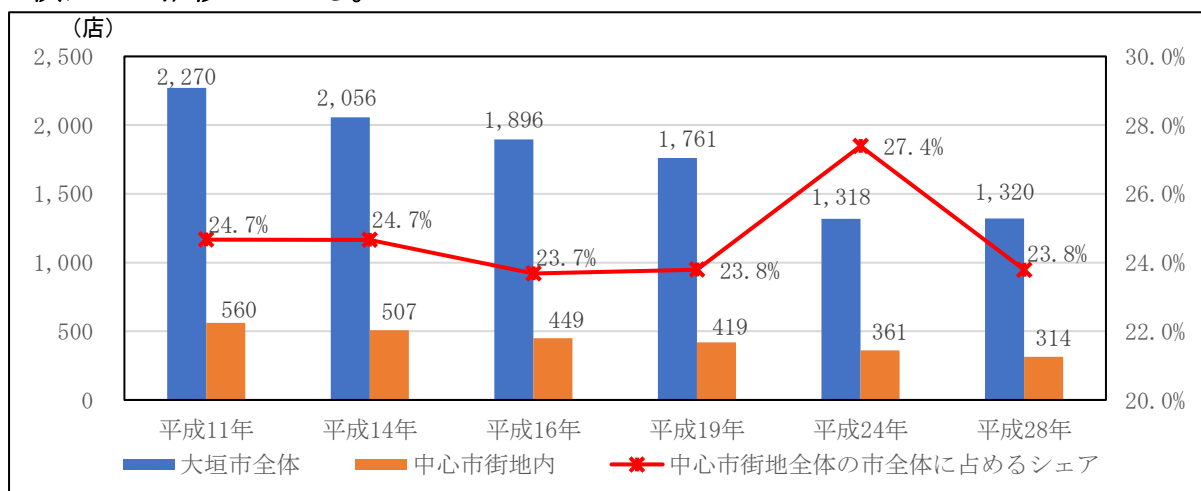
⑤ 商業・観光に関する状況

- 1) 小売業事業所数、従業者数、年間商品販売額、売り場面積及び市全体に占めるシェア

【小売事業所数の推移】

大垣市全体の小売業事業所数の推移をみると、平成14年から平成24年度まで減少を続けていたが、平成28年は若干増加した。

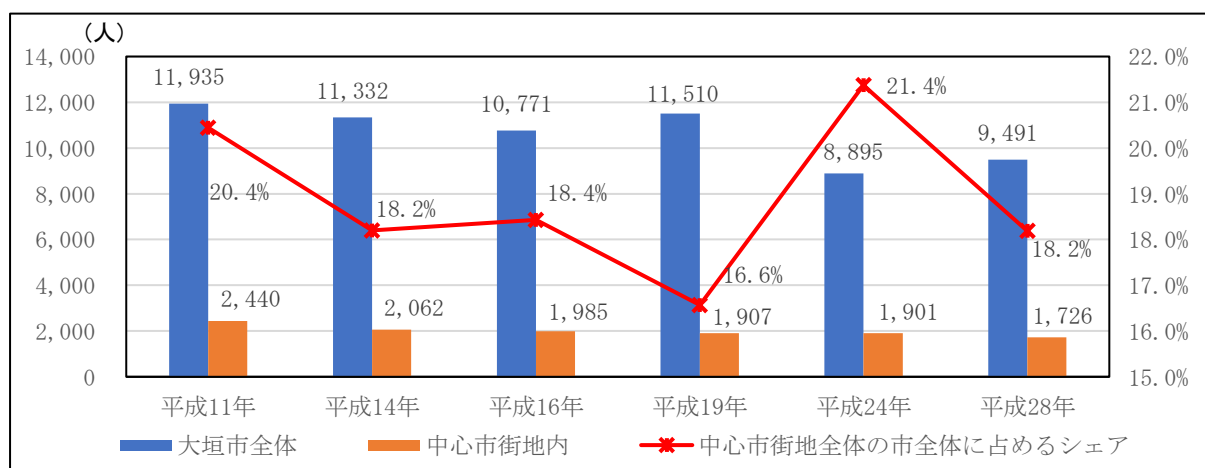
また、中心市街地内の小売業事業所数の推移をみると、平成11年から平成28年まで継続して減少しており、市全体に占めるシェアは平成24年に一時増加した以外はほぼ横ばいで推移している。



(資料：経済センサス)

【従業者数の推移】

大垣市全体の従業者数の推移は、増加減少を繰り返しているが、平成24年からは、1万人を割る状況が続いている。また、中心市街地内の従業者数の推移をみると、平成11年から継続して減少しており、市全体に占めるシェアは平成24年で一時増加したもの、平成28年で再び減少している。

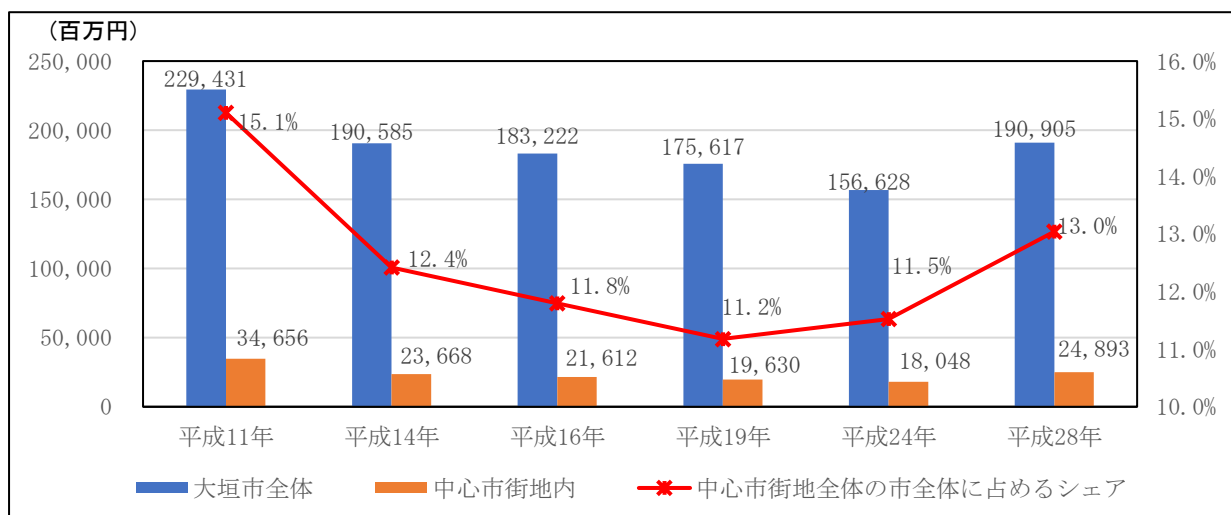


(資料：経済センサス)

【年間商品販売額の推移】

大垣市全体の年間商品販売額の推移は、平成11年から平成24年まで減少を続けていたが、平成28年は平成14年並みに回復した。

また、中心市街地の年間商品販売額の推移においても、市全体と同じく平成11年から減少を続けているが、平成28年は平成14年並みに増加しており、市全体に占めるシェアは平成24年から1.5%回復している。

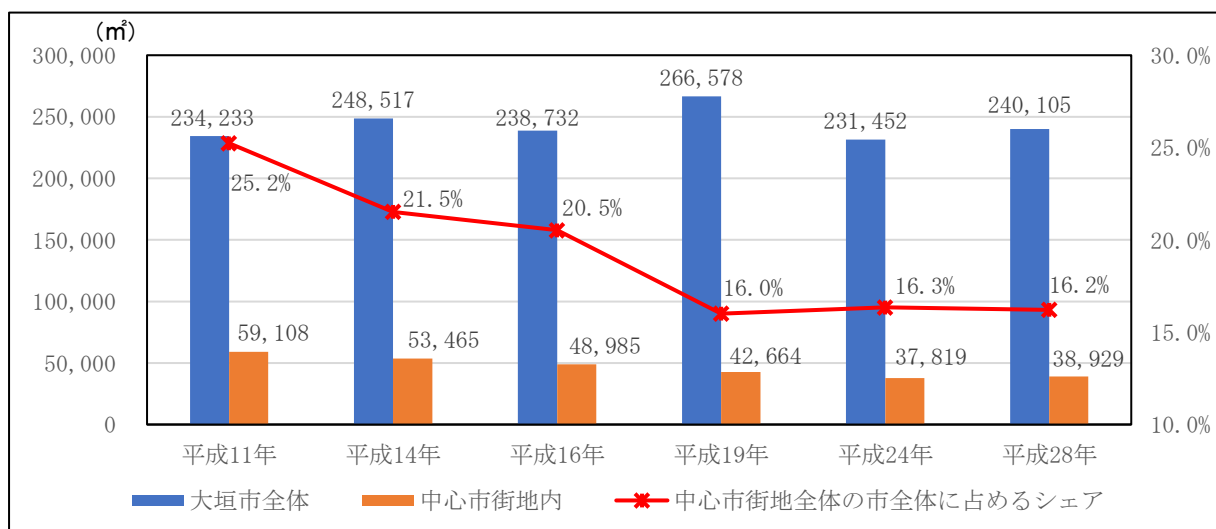


(資料：経済センサス)

【売り場面積の推移】

大垣市全体の売り場面積は、平成14年から16年は減少し、平成19年は増加、平成24年は減少し、平成28年は増加と増減を繰り返している。

一方、中心市街地の売り場面積と大垣市全体に占めるシェアは、平成11年から平成19年までは減少傾向にあったが、平成19年から平成28年にかけてはほぼ横ばいで推移している。



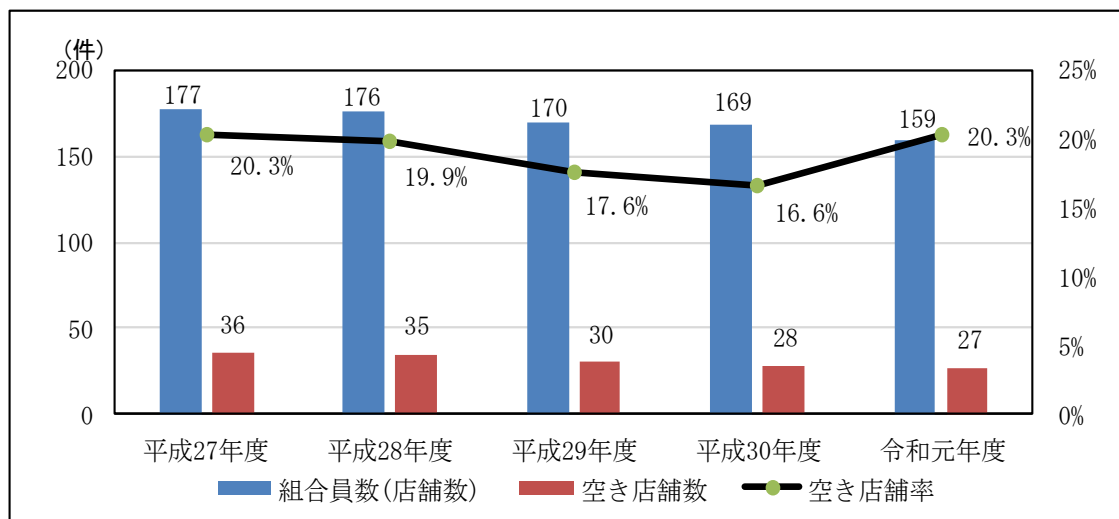
(資料：経済センサス)

2) 中心市街地内の空き店舗数の推移

商店街振興組合員数は平成27年度から令和元年度にかけて減少を続けており、商業者の廃業が中心市街地内で進行しているものと思われる。

中心市街地内の空き店舗数は、空き店舗対策事業等により減少はしているが、依然30店舗程度で推移している。

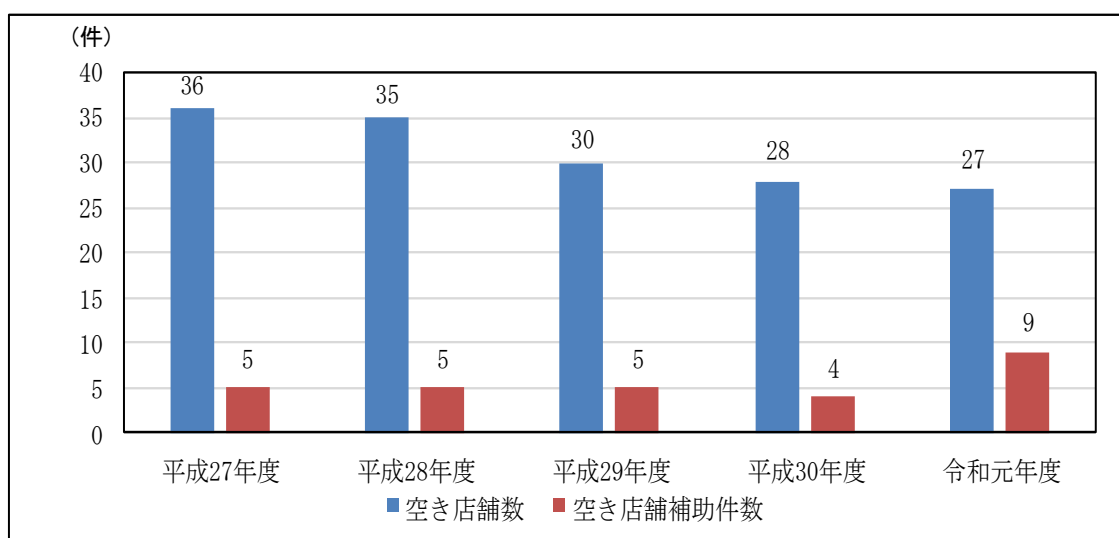
【空き店舗数等の推移】



(資料：大垣市)

【空き店舗対策事業の実施状況】

市単独による空き店舗対策事業を平成8年度から実施しており、店舗改装費及び家賃に対する補助を実施している。年間平均5店舗の実績があり、空き店舗活用の推進を図り、その解消に努めている。



(資料：大垣市)

3) 大垣市内の大型小売店舗立地状況

大垣市内における大型小売店舗の立地状況をみると、平成25年から令和元年までの7年間で、新規出店は8店舗となっている。

【大垣市内における大型小売店舗の立地状況の一覧】

名称	開業年	新 改	店舗面積 (㎡)	主な商品	駐車場 (台)	用途地域
バローショッピングセンター大垣店	平成 7年	新	4, 681	衣料品、食料品	645	準住居地域
カネスエ昼飯ショッピングセンター	平成11年	新	5, 153	衣料品、食料品	301	第二種住居地域
バロー大垣南ショッピングセンター	平成15年	新	8, 994	衣料品、食料品	740	工業専用地域
バロー大垣赤坂店	平成15年	新	2, 838	食料品	169	工業地域
イオンタウン大垣	平成17年	新	26, 263	衣料品、食料品	2, 085	準工業地域
ニトリ岐阜大垣店	平成17年	新	4, 921	家 具	182	準工業地域
平和堂ノースウエスト店	平成18年	改	6, 585	衣料品、食料品	1, 200	準住居地域
静里ショッピングセンター	平成18年	改	1, 306	食料品	286	準工業地域
アル・プラザ鶴見・DCM大垣鶴見店	平成18年	改	25, 939	衣料品、食料品 家庭用品	1, 090	準工業地域
スーパー三心大垣店（閉店）	平成18年	改	3, 429	衣料品、食料品	415	第一種住居地域
イオンモール大垣	平成19年	新	34, 025	衣料品、食料品	2, 460	近隣商業地域
アクアウォーク大垣	平成19年	新	25, 500	衣料品、食料品 生活関連品等	1, 813	準工業地域
ドラッグユタカ大垣旭町店	平成21年	新	1, 672	医療品、食料品	52	商業地域
ケーヨーデイツー大垣赤坂店	平成22年	新	5, 060	住宅用品 日用品	195	工業地域
クスリのアオキ中野店	平成25年	新	1, 378	医薬品、日用雑貨	46	第一種住居地域
バロー大垣東店	平成26年	新	3, 206	食料品、衣類品	135	準工業地域

名称	開業年	新 改	店舗面積 (㎡)	主な商品	駐車場 (台)	用途地域
ヤマダ電機テック ランドNEW大垣 店	平成26年	新	4,586	家電電化製品	440	準工業地域
AOKI大垣駅北 店	平成26年	新	570	衣類品		準工業地域
ラ・ムー大垣店	平成26年	新	1,798	食料品、日用品		準工業地域
Mikawaya船町店	平成26年	改	1,473	食料品	100	準工業地域
エディオン大垣ベ ルプラザ店	平成28年	新	6,730	家電電化製品	360	準工業地域
スーパービバホー ム大垣店	平成29年	新	8,931	住宅用品建築資 材	300	準工業地域
ドラッグコスモス 長松店	平成30年	新	1,633	医薬品、日用雑 貨	56	第一種住居地 域
ドン・キホーテ大 垣浅草店	平成30年	改	3,649	食料品、日用雑 貨	233	工業地域
大垣ステーション ビル（アスティ）	平成31年	改	6,274	衣料品、食料品	478	商業地域

※網掛＝中心市街地内の大型小売店舗

(資料：大垣市)

新＝新築、改＝増改築または店舗名変更

4) 観光（来街者数の推移）

<主な観光地への観光客数>

中心市街地内の主な文化観光施設の入館者数の推移をみると、平成24年4月に観光交流の拠点施設となる奥の細道むすびの地記念館の開館以降、平成28年度までは増加傾向にあったが、平成29年度からは減少傾向にある。

【中心市街地の主な文化観光施設の入館者数】

（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
奥の細道むすびの地記念館	221,963	237,835	209,605	200,456	194,296
大垣城	81,904	91,686	77,383	73,987	70,631
郷土館	35,415	36,109	25,790	17,808	26,405
守屋多々志美術館	6,114	6,286	7,456	7,093	6,071
合 計	345,396	371,916	320,234	299,344	297,403

（資料：大垣市）

<中心市街地内のまつり・イベントを訪れた観光客数等>

中心市街地内で実施されるまつり・イベントを訪れた観光客数の推移をみると、平成27年度以降、増減を繰り返している。増減においては、大垣まつり等のイベントにおける天候が一因である。

特に、平成30年度は、大垣市制100周年事業により元気ハツラツ市（現まちなかスクエアガーデン）をはじめとする大垣駅通りでの各種イベントの他、平成24年4月にオープンした奥の細道むすびの地記念館でも、積極的にイベントを開催していることや、平成28年に大垣まつりがユネスコ無形文化遺産に登録されたことを受け、特に増加傾向にある。

令和元年度においては、新型コロナウイルス感染症の外出自粛等により減少した。

【観光客の人数】

（単位：人）

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
観光客の人数	2,666,142	2,907,262	2,871,013	3,091,584	2,785,016

（資料：大垣市）

5) 宿泊客数の推移

宿泊客数の推移をみると、景気の状態や、東日本大震災の影響により減少以降、平成22年からは、基本的に増加傾向にある。

中心市街地には、大垣駅周辺をはじめ、多くのホテル等宿泊施設が立地し、特に令和2年3月には新たにホテルが1件オープンするなど、宿泊客は中心市街地を中心とした観光等が目的と思われる。

外国人については、大手旅行社によるゴールデンルート（外国人の東京＝大阪間の観光ルート）の宿泊地として利用されているため、増加傾向にある。

さらに、本市はものづくり企業が数多く集積しており、国内外からのビジネス客の来訪も多いと思われる。

【大垣市内の宿泊客の人数】

(単位：人)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
宿泊客の人数	263,799	246,327	250,026	229,910	245,192
うち外国人	41,521	40,646	32,644	38,748	39,994

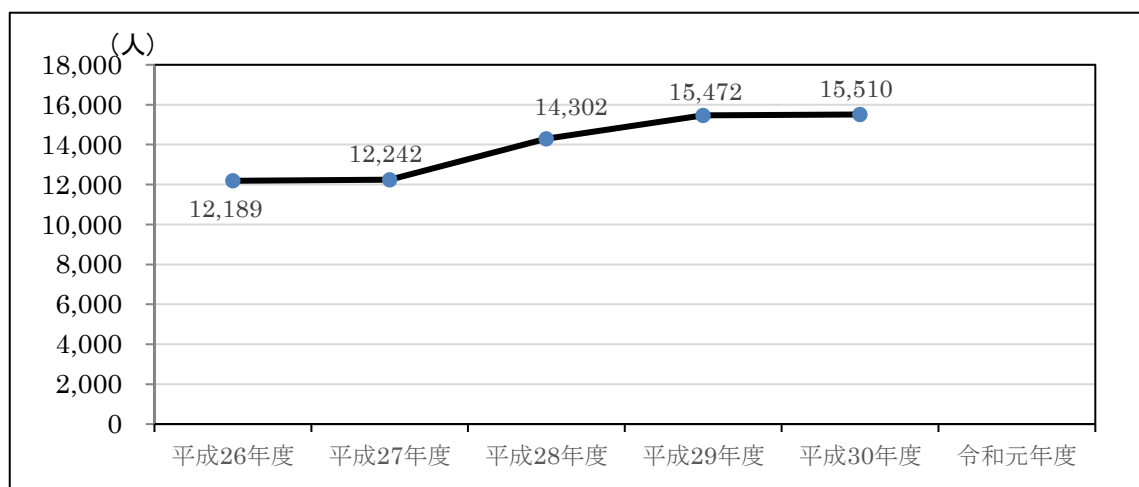
(資料：大垣市)

6) 歩行者・自転車通行量の推移

平成26年度から平成30年度までの歩行者、自転車通行量の推移をみると、平成27年度から平成28年度にかけて増加し、以降は微増で推移している。

平成28年度に増加したのは、中心市街地の人口増加が同じく平成28年であることと、ソフト事業によるまちなかのにぎわい強化が影響していると推測している。

【中心市街地内の休日歩行者通行量の推移】



※令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響により未計測 (資料：大垣市)

⑥ 公共交通等移動手段に関する状況

1) 鉄道網の整備状況

J R 東海道本線が市域を東西に通り、南北には養老鉄道養老線が通っている。また、大垣駅を基点として樽見鉄道樽見線が、瑞穂市・本巣市方面と結んでいる。

J R 東海道本線、養老鉄道養老線、樽見鉄道樽見線は大垣駅で結節しており、大垣駅は本市のみならず、西美濃地域における重要な交通結節点としての機能を果たしている。

大垣駅を重要な拠点とした鉄道網による広域ネットワークにより、中心市街地は本市の玄関口、また西美濃地域のゲートウェイとしての役割を担っている。

なお、大垣駅ビルが平成31年4月に「ASTY大垣」としてリニューアルオープンしている。

【大垣市内の鉄道及び主要道路の状況】



2) 鉄道駅乗車人員等の推移

大垣駅から各線の年間乗車人員の1日平均の推移をみると、ＪＲ東海道本線については、平成27年度から30年度までゆるやかな増加傾向にある。平成30年度の1日平均乗車人員は17,152人で推移している。

養老鉄道養老線については、ゆるやかな増加傾向にあり、平成30年度の1日平均乗車人員は4,929人で推移している。

樽見鉄道樽見線については、平成27年度から28年度にかけては増加しているが、全体には減少傾向にある。平成30年度の乗車人員は1日平均702人で推移している。

定期と定期外による区分をみると、ＪＲ東海道本線については、定期が平成27年度から29年度にかけて増加、平成30年度には減少したが、定期外については一貫して増加している。養老鉄道養老線については、定期はほぼ横ばいであるが、定期外については増加している。樽見鉄道樽見線については、定期、定期外ともにほぼ横ばいである。

【大垣駅の乗車人員等】

(単位：人)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
Ｊ Ｒ	計	6,221,838	6,233,822	6,261,930	6,260,476	6,276,663
	定期	4,349,414	4,354,558	4,359,869	4,355,222	4,421,973
	定期外	1,872,424	1,879,264	1,902,061	1,905,254	1,854,690
	1日平均	17,000	17,079	17,156	17,152	17,196
養 老 鉄 道	計	1,773,593	1,782,725	1,786,235	1,799,220	1,813,361
	定期	1,387,620	1,390,950	1,382,490	1,388,190	1,395,480
	定期外	385,973	391,775	403,745	411,030	417,881
	1日平均	4,859	4,884	4,894	4,929	4,968
樽 見 鉄 道	計	260,561	264,387	255,784	255,831	269,416
	定期	138,330	141,630	133,920	134,790	141,870
	定期外	122,231	122,757	121,864	121,041	127,546
	1日平均	714	724	701	702	737

(資料：大垣市)

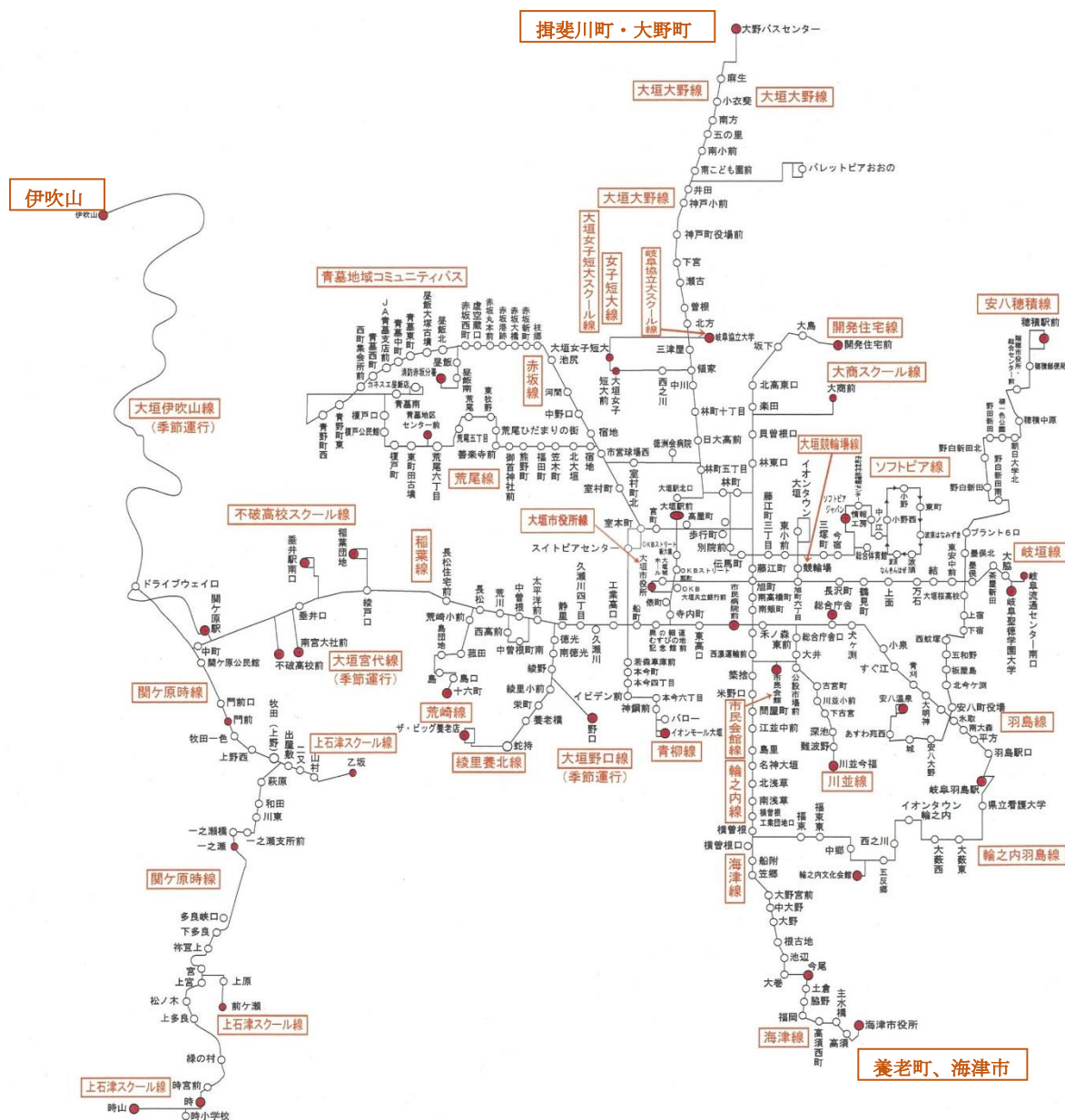
3) 乗合バスの路線及び運行本数

乗合バス路線は、大垣駅を中心に駅の南口及び北口から西美濃地域の各市町に向けて東西南北方向に路線があり、通勤や通学その他、自家用車を所有しない高齢者の買い物や通院等の貴重な移動手段として利用されている。

本数は大垣駅の平日の1日往復で、601本が運行されている。

なお、立地適正化計画に基づいたコンパクトなまちの骨格となる公共交通ネットワークを形成しつつ、大垣駅等へ向かう広域的な移動ニーズに対応したサービスを維持・活性化するため、関係者が連携して地域公共交通網形成計画の策定を進めている。

【大垣市内の乗合バス路線図】



(資料：名阪近鉄バス)

4) 乗合バスの平均乗降者数

乗合バスの乗降者数をみると、平成27年度は大垣駅前で平日約2,900人、土曜約1,500人、日曜1,300人以上が乗降している。また、平成27年度から令和元年度までの平日の平均乗降者数の推移をみると、OKBストリート新大橋、OKBストリート郭町、俵町で減少しているものの、大垣駅前、OKB大垣共立銀行前、奥の細道むすびの地記念館前では増加している。

【乗合バスの平均乗降者数】

	平日			土曜			日曜		
	乗降者数 平均(人)		平成27 年対比 (%)	乗降者数 平均(人)		平成27 年対比 (%)	乗降者数 平均(人)		平成27 年対比 (%)
	H27	R01		H27	R01		H27	R01	
大垣駅前	2,896	2,906	100.3	1,565	1,690	108.0	1,300	1,328	102.2
OKBストリート 新大橋	72	64	88.9	46	45	97.8	26	25	96.2
OKBストリート 郭町	157	132	84.1	33	26	78.8	46	25	54.3
OKB大垣共 立銀行前	90	104	115.6	17	25	147.1	15	12	80.0
俵町	44	38	86.4	13	15	115.4	14	17	121.4
奥の細道むすびの地 記念館前	24	29	120.8	19	19	100.0	11	16	145.5

(資料：名阪近鉄バス)

5) 駐車場整備の実態

令和2年度現在、中心市街地周辺の市営駐車場は5か所で合計711台が整備されている。利用状況は、大垣駅に近く一時利用のみの駅南及び駅北については増加傾向が続いているが、他の立体駐車場については民間駐車場の増加等により近年は減少傾向となっている。

なお、中心市街地内における民間の不特定利用駐車場は、令和元年度時点で42か所整備されており、1,355台が収容可能となっている。

また、観光バス駐車場利用台数については、平成29年度まで増加傾向にあり、平成30年度に減少したものの令和元年度は回復傾向にある。これは、元気ハツラツ市（現まちなかスクエアガーデン）等のにぎわいづくりイベントの開催や、観光客の誘客施策を積極的に推進したものの、天候不良等が影響している。

【中心市街地周辺の市営駐車場利用台数】

No.	駐車場名	収容台数 (台)	利用実績 (台)				
			27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
1	東外側駐車場	200	56,447	59,677	49,786	46,854	49,422
2	丸の内駐車場	251	49,735	54,373	58,265	44,274	48,438
3	清水駐車場	230	27,599	24,655	23,066	20,916	19,537
4	駅南駐車場	17	84,794	86,821	87,729	82,428	91,914
5	駅北駐車場	13	62,377	68,750	73,095	75,135	77,616
	合 計	711	280,952	294,276	291,941	269,607	286,927

※清水駐車場は中心市街地外

(資料：大垣市)

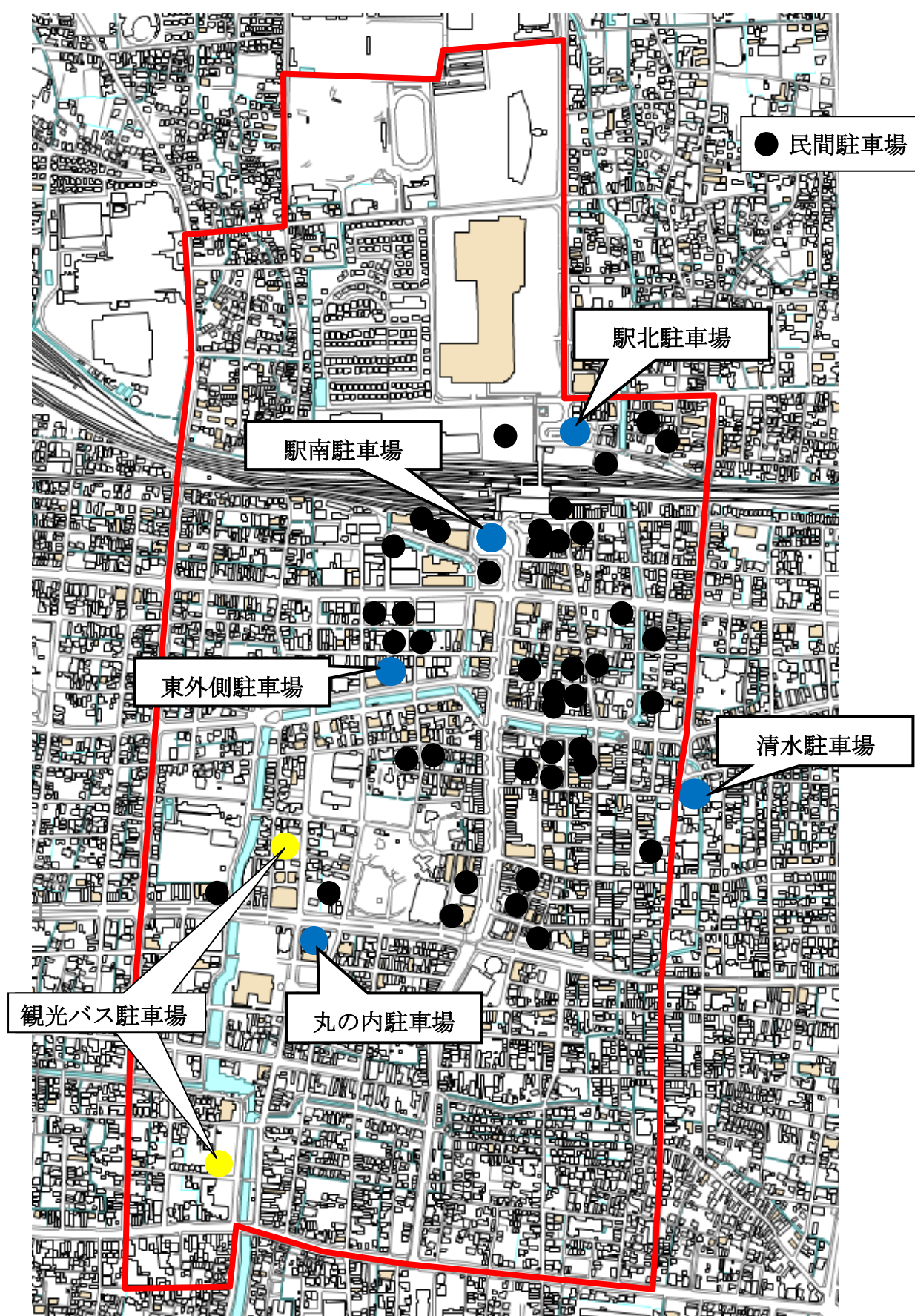
【観光バス駐車場利用台数】

(単位：台)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
観光バス 駐 車 場 利用台数	553	703	782	553	618

(資料：大垣市)

【中心市街地区域内の駐車場位置図】

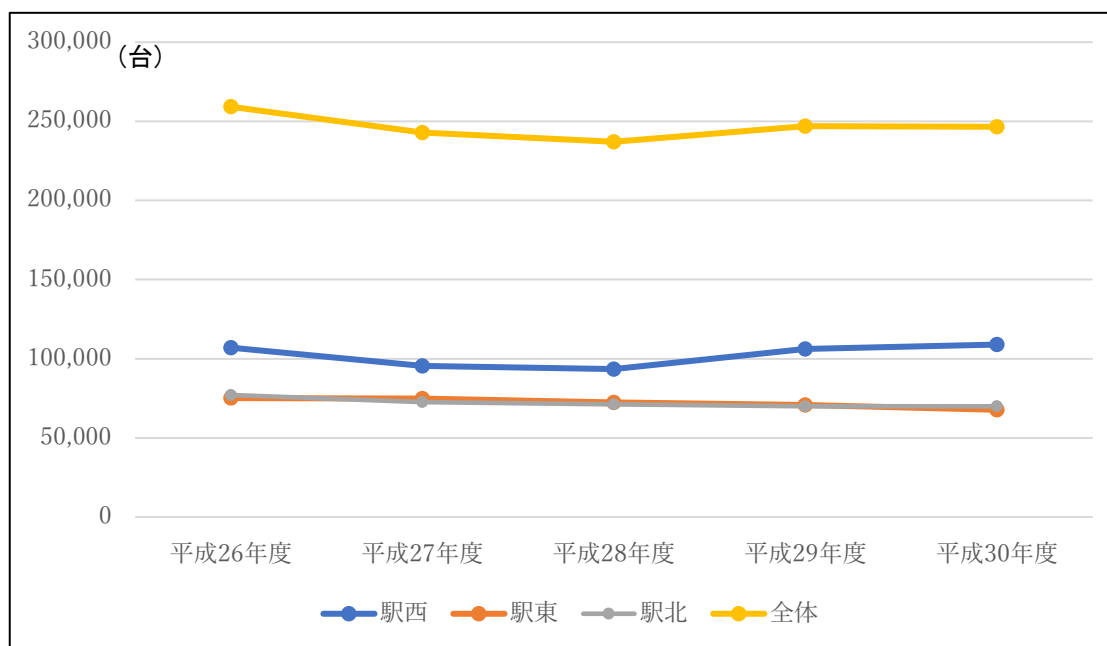


6) 大垣駅周辺の自転車駐車場の利用台数の推移

大垣駅周辺には市営自転車駐車場が3か所あり、収容台数は合計で4,747台となっている。

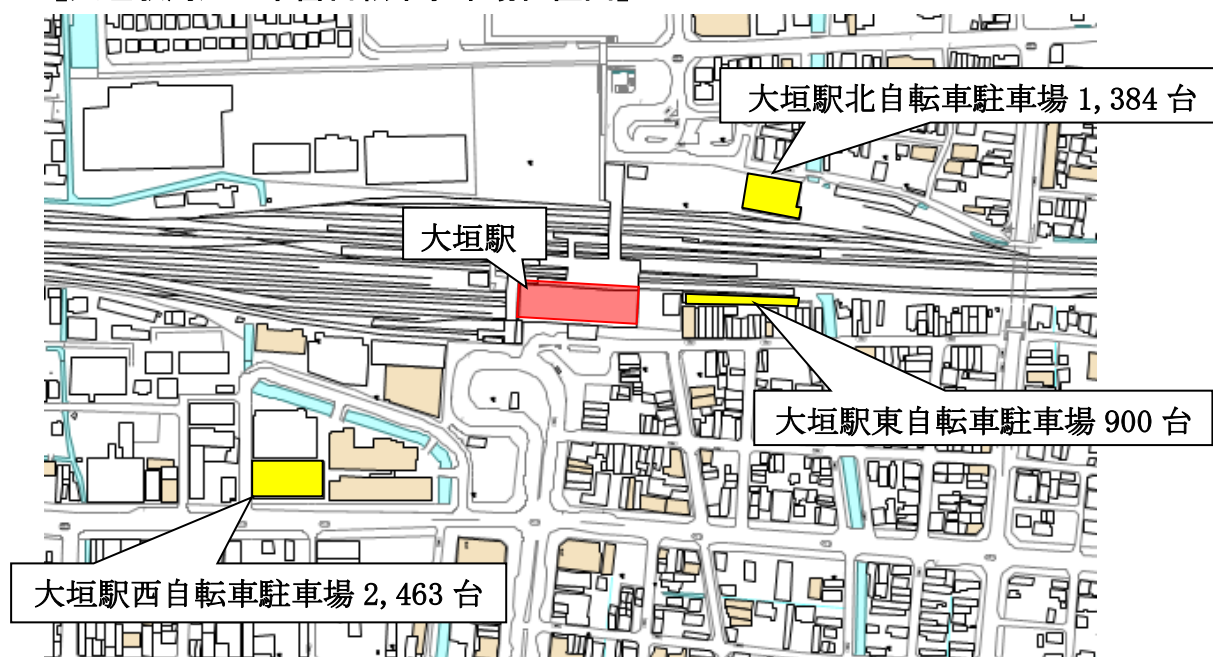
平成26年度から28年度にかけて減少傾向にあったものの、平成29年度から回復し、ほぼ横ばいで推移している。

【大垣駅周辺の市営自転車駐車場利用台数の推移】



(資料：大垣市)

【大垣駅周辺の市営自転車駐車場位置図】



⑦ 今後の主な都市機能施設等の整備概要

1) 郭町東西街区都市再生区画整理事業

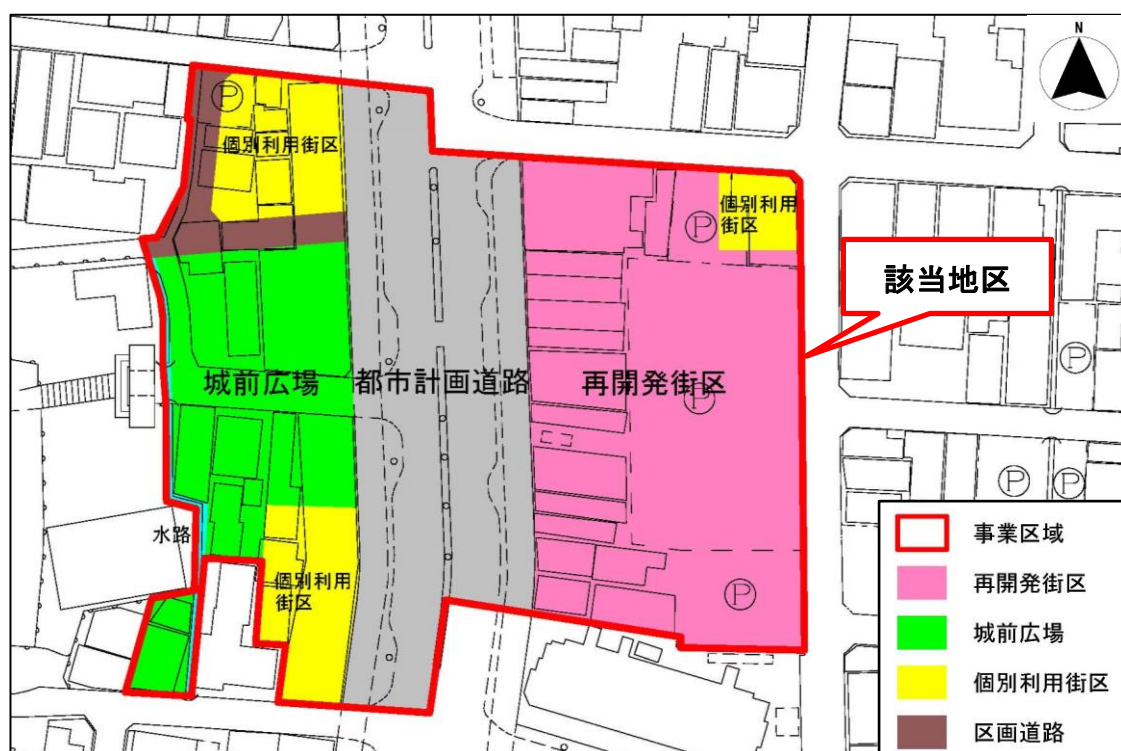
大垣城に隣接する郭町東西街区において、老朽化した建物を更新し、また、大垣城と一体となる城前広場を整備し、歴史的景観と調和のとれた個別利用の宅地配置を行うことで、魅力的な中心市街地の形成及びにぎわい創出を図る。

○事業期間：令和3～7年度

○事業主体：市

○事業概要：地区面積：約1.4ha

○土地利用計画イメージ図



2) 郭町東西街区市街地再開発事業

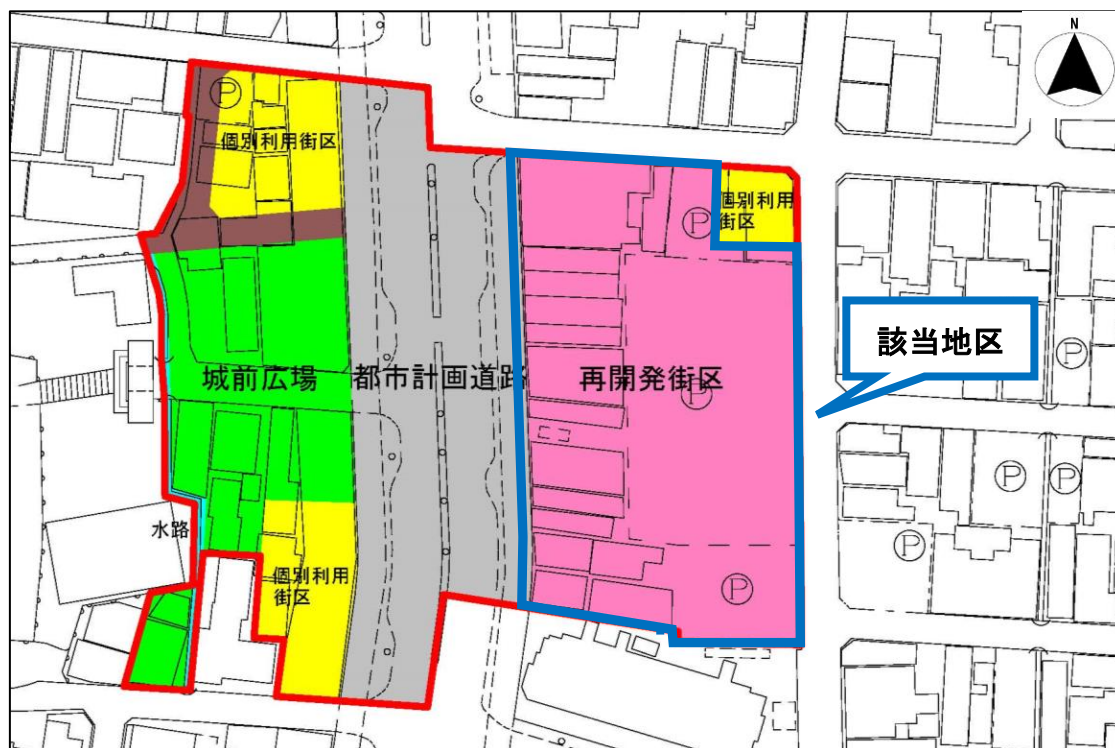
大垣城に隣接する郭町東西街区において、市施行の土地区画整理事業と一体的に実施し、土地の有効利用、高度利用を図り、まちなか居住の促進及び中心市街地のにぎわい創出を図る。

○事業期間：令和3～7年度

○事業主体：郭町東西街区市街地再開発準備組合

○事業概要：地区面積：約0.7ha

○土地利用計画イメージ図



3) 大垣駅南前地区市街地再開発事業

大垣駅南前地区は、大垣駅南口から約200mに位置しているが、百貨店の空きビルや共同ビル、青空駐車場等があり、駅前でありながら低未利用な区域である。

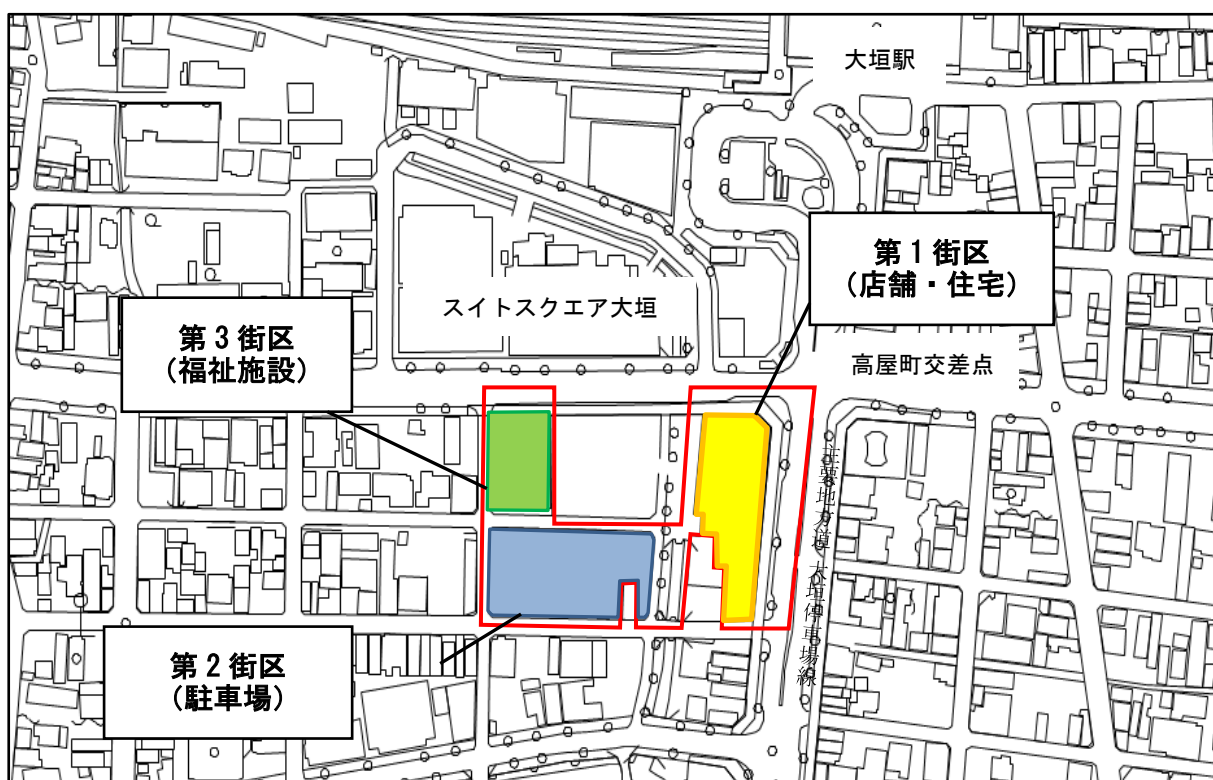
まちなかの再生や都心居住の促進を図るとともに、安全で活気ある基盤整備を行い、賑わいの創出を図る。

○事業期間：令和6～10年度

○事業主体：大垣駅南前地区市街地再開発準備組合

○事業概要：地区面積：約1.2ha

○土地利用計画イメージ図



4) 丸の内公園整備事業

新庁舎整備に伴い、庁舎、水門川、公園が一体となった、誰もが利用できる公園を整備し、中心市街地のにぎわい創出を図る。

○事業期間：令和3年度（全体 令和元～3年度）

○整備規模：約1,570㎡

○整備イメージ図



南西上空から望む



南から望む